

2010
YAMANASHI
Dreams Come True Project

甲府グランドデザイン2010
提言書

2011年1月
山梨経済同友会
D.C.T.P.



目次

1. はじめに	03
2. D.C.T.P.の位置づけと目指すべき方向性	04
1. 山梨県の目指すべき方向性	
2. 甲府の目指すべき方向性	
3. D.C.T.P.提言の考え方	
3.過去の知見と検討の前提条件	08
1. 過去の知見について	
2. 検討にあたっての前提条件	
1-検討のコンセプト	
2-検討範囲	
3-時間軸	
4-制約条件等	
4.甲府の現状と問題点	12
1. エリア毎の機能について	
2. 動線について	
1-自動車動線について	
2-歩行者動線について	
3. 景観について	
5.甲府グランドデザインのコンセプト	16
1. 山梨全体の玄関口	
2. 観光客と生活者の共存	
3. 市民が誇りに思える街	
6. 甲府グランドデザイン	20
1. 観光エリアにおける提言	
1-山梨の玄関口と観光起点(駅前南口正面～東側)	
2-舞鶴城エリア	
3-県民会館跡地	
4-県庁・市役所	
5-駅前南口西側(飲食街)	
6-その他(ホスピタリティ)	
2. 生活エリアにおける提言	
1-駅前正面ロータリー(西側)	
2-駅前南口西側	
3-舞鶴城南～紅梅地区	
4-舞鶴城	
3. 甲府統一ブランド化を目指して	
7.おわりに	30



1.はじめに

山梨経済同友会設立以来、常に郷土山梨には県民共通の明確な「夢」「ビジョン」「グランドデザイン」が無いという議論がなされてきたが、山梨経済同友会として、行政・県民を説得するだけの提言はなされていない。

今から山梨県は大きな変化の時代に入る。少子高齢化や人口減少はもちろんのこと、道州制、リニア中央新幹線、中部横断道の開通などもある。これらの大きな変化が到来しつつある今こそ、山梨県のアイデンティティをもう一度確立し、全県民が山梨の将来ビジョンを具体的なイメージとして肌で感じるものが何より大切なことであると考えます。

この問題に対し、山梨経済同友会は地域のオピニオンリーダーとしての役割を果たすべく、「提言」を行うこととし、それを検討するプロジェクトをD.C.T.P. (Dreams Come True Project) と命名した。このD.C.T.P.の「提言」により、山梨県の将来ビジョンに向って、少しでも「官」「民」一体となった取組みが実現されるのであれば、望外の喜びである。

2011年1月

D.C.T.P. 座長 望月操三

2.D.C.T.P.の位置づけと目指すべき方向性



2010
YAMANASHI
Dreams come true project

1. 山梨県の目指すべき方向性

山梨県の目指すべき方向性を考える前提として、確実に起こりうる最大の変化は、少子化による人口減少社会の到来である。地域活性化の基本は人にあるが、人口減少は日本全体のパイが減少していく話であり、定住人口の減少は避けられない状況にある。そうすると着目すべきは交流人口である。国内はもちろんのこと、急増している中国人を含めた外国人観光客を取り込むことで交流人口の増加を図ることが、地域活性化の必要条件となろう。これらの変化や方向性については、「チャレンジ山梨行動計画（山梨県）」における将来展望として多面的に論じられており、「甲府市観光振興基本計画（甲府市）」においては日本及び山梨の観光の動向について詳細に記述されているため、これらの知見を前提として大いに活用しながら話を進めていきたい。

さて山梨における交流人口を増やすために、山梨にいかなる強みがあるのかを考えていきたい。山梨の強みは、言わずもがなであるが、神が山梨に与えてくれた豊かで素晴らしい自然が存在することである。例えば富士山をご覧頂きたい。見ているだけでも感銘を受けるではないか。また自然を活かした水や果物、ワイナリー・蔵元といったものから、歴史や伝統産業など、魅力溢れる非常に多くの観光・集客資源が存在する。これらの「宝物」を発掘し、磨きをかけ、世間の認知度を高めていくことが、山梨県の目指すべき方向性の中心に据えられるべきであろう。

しかし弱みもある。それは観光・集客資源の一つ一つではどれも圧倒的な集客力を持たず、かつ県内の広い範囲に点在していることである。つまり集客エネルギーが分散しているのである。それに加えて、県外に対する情報発信力が弱く、せっかくの素晴らしい資源の認知度が低いことも問題である。そのため県外からは、県全体としての「顔」がはっきり見えてこないことが、大きな課題として挙げられる。

以上から山梨県の目指すべき方向性を総合すると、山梨に点在する素晴らしい観光・集客資源を地域毎に明確化し、それらの点を結び県全体の面的な大きな魅力をつくり出し、その魅力を認知させるための戦略的な情報発信を行っていくことである。そのためには、観光資源のパッケージ化、観光ハブ機能の設置、ソフト・ハードの整備、海外含めた広報戦略（特に中国人）などを、総合的に整備していくことが必要であろう。



2. 甲府の目指すべき方向性

山梨の目指すべき方向性が、県全体を面としての大きな魅力をつくり出すことであるならば、まず各地域を結ぶ中心となる拠点を設定する必要がある。このハブ機能は、認知度や地理的条件、過去の経緯などを総合すると、やはり県都甲府が担うべきであろう。よって検討の出発点は、県都甲府にフォーカスして論じていきたい。

その県都甲府では、今まさに駅の北口、南口の双方において開発計画が実行に移されている状況にあるが、懸念すべき事項が二つあると考える。

一つ目は甲府駅の北口エリア・南口エリア全体を俯瞰した将来のランドデザインがイメージしにくいことである。例えば北口の開発や、紅梅地区の開発においては、エリア毎の目的は明確になっているが、全体を俯瞰したランドデザインがあれば、現在の計画に不足している点や合わせて検討していくべき点などを浮き彫りにでき、面全体としてより有効な開発が可能になると考える。

またランドデザインを考える上では、甲府という街が他の街と比較して、何が足りないのか、劣っているのかという観点から、現状の問題点を虚心坦懐に見つめなおすことも重要であろう。

二つ目は、開発については官主導が目立ち、民間の参入があまり感じられないことである。その原因は、民間から見て投資インセンティブが働いていないためではないだろうか。当たり前であるが、企業は投資を回収するだけのリターンが見えてこなければ投資は行わない。つまり開発が終了したときに、どのくらい魅力のある街に変貌するかが具体的にイメージできることが重要なのである。この懸念についても、魅力のある具体的なランドデザインをつくることで、状況を変えていきたいと考えている。

以上論じてきたことをまとめると、山梨の目指す方向性においては、甲府が中心としての重要な役割を担うため、まずは甲府にフォーカスして検討していく。さらには、現在甲府で行われている開発計画をより有効に機能させるためにも、甲府駅周辺のランドデザインを具体的に描いていくこととする。

なお甲府のランドデザインを描くにあたり、将来的な方向性については、「第5次甲府市総合計画（甲府市）」、甲府の強み・弱みの分析等については「つなぐ街・甲府（商工会議所）」にて多面的かつ詳細に論じられているため、それらの知見も今後検討する上での前提とし大いに活用しながら論じていきたい。



3. D.C.T.P.提言の考え方

今回のD C T Pの提言については、前述のとおり「甲府グランドデザイン」を策定するが、今まで街づくりについて検討してきた先人達の知見は大いに活用していく。その上で、提言の内容は、より現実的なイメージができるような具体的な内容、つまり何がどう変わったかが明確にわかるようなものにしていく。グランドデザインを描くとなると、地権等の問題があるため総じてなかなか具体化しきれない点があるが、あえて今回は地権等の問題を考慮せず、あるべき姿を大胆にフリーハンドで具体的に描いていくこととする。内容によっては大いに議論を呼ぶことになるかもしれないが、理想の具体的な全体像を見せることにより議論が起き、それがきっかけで甲府の街づくりが動き出す火種となれば幸甚である。

またグランドデザインを描く上での最初のマイルストーンを3年後の平成25年とした。これは山梨で「国民文化祭」が行われる年である。「国民文化祭」は、今後の交流人口増を目指す上で、最大の機会の一つであり今後の観光立県を目指す上で大きなステップともなるイベントである。この開催までに、できる限りの準備をして、より大きな成功を収めることが、山梨の目指すべき未来への大きな一歩となるであろう。そのためにも、早急に甲府のグランドデザインを描き、その方向性に向かって「官」「民」が一体となって動き出すべきであり、今がまさにそのタイミングだと考える。



3.過去の知見と検討の前提条件

山梨及び甲府の将来像については、過去に様々な提言がなされてきた。例えば、「チャレンジ山梨行動計画（山梨県）」、「第5次甲府総合計画（甲府市）」、「甲府グランドデザイン（甲府商工会議所）」などであるが、これらの知見は参考として大いに活用していきたい。例えば、これらの知見において本提言に関する部分を大胆に列挙すると、下記のとおりである。

（各種ビジョンの比較等については、別図1参照）

1.過去の知見について

- 自然資源を活かした観光立県の推進
- 特産品等におけるやまなしブランド、統一ブランドの設定
- 歴史資源の活用、歴史文化の継承（甲府）
- 甲府のハブ機能の確立
- コンパクトシティの実現（甲府）
- おもてなしの充実、ホスピタリティの強化

ここでは、詳細は割愛するが、上記の方向性は過去の知見において、ある程度共通的に述べられている事項であるため、本提言ではこれらの知見を前提とし大いに活用しながら、より具体的な内容に踏み込んで検討することとする。

- ・将来ビジョンは概ね10～20年後を想定し、それを具体的な計画に落とし込みを実施
- ・ビジョンの内容については、「経済」「観光」「交通」「自然」等であり、基本的な項目については多くの議論がなされてきた



・山梨の各種ビジョンを比較すると、空間軸、時間軸に違いはあるものの、内容についてはある程度同一の方向を示唆している

2. 検討にあたっての前提条件

①検討のコンセプト

県都甲府が山梨全体の観光ハブの機能を担うために、甲府駅前の中心街がどうあるべきか、という観点から具体的な甲府のランドデザインを描く。検討にあたっては、街全体のコンセプトを定めた上で、エリア毎のあるべき姿を具体的に論じていく。

②検討範囲

今回は、山梨全体における観光のハブ機能としての甲府の検討であるため、検討対象は甲府市の中でも中心街（甲府駅南北エリア）に検討範囲を限定する。具体的には、北側は現在の再開発エリア、南口は城東通りまでのエリアを検討範囲とする。

scope area



③時間軸

「国民文化祭」が行われる平成 25 年度をグランドデザインの最初のマイルストーンとして設定する。提言するグランドデザインを平成 25 年度までに実現させるためには超えるべき多くのハードルがあるが、少しでも平成 25 年度までに実現したいという思いから平成 25 年度とした。

④制約条件等

地権等の制約条件は考慮せず、あるべき姿を大胆にフリーハンドで描いていくこととする。しかしながら、現在行われている北口や南口の開発計画に関しては、現時点で計画見直しを行うことは非現実的であるため、開発計画の実現を前提とした提言を行う。

time. condition



4. 甲府の現状と問題点

まず基本的な甲府の現状と表面化している問題点を虚心坦懐に抽出することから始めていきたい。本章では「エリアの機能」、「動線」、「景観」の3つの切り口から具体的に問題点を列挙していく。なお、解決策は街づくり全体のコンセプトを踏まえて策定するものであるため、本章では問題点の列挙にとどめる。
(エリア毎の問題点の整理については別図2参照)

1. エリア毎の機能について

エリア毎の機能とは、人の流れをつくるためにエリアが果たす役割である。逆に言うと、人がその場所に行くための目的である。エリア機能の例を挙げると「観光」、「ショッピング」、「交通の拠点」といったイメージである。エリア毎の機能を明確にすることがランドデザインを描く上で基本的かつ重要な要素となる。

●**北口エリア**については、エリア毎の機能は既に明確である。西側は官公庁集積、北側は図書館等の生活サポートであり、主に生活者のためのエリアといえる。東側は、歴史公園、甲州夢小路、よっちゃばれ広場など観光を誘引するエリアである。

●**南口エリア**については、総じて機能が不明確である。具体的には、駅前正面、駅東側、駅西側、ファンシーロード・紅梅地区周辺の四つについて論じていく。

●**駅前正面**については、玄関口としての機能を果たすべきであるが、まず山梨を印象づけるものが無く、観光地への案内という機能も弱い。駅を出たら、山梨にきたことを実感でき、さらに「あそこに行ってみたい、これを楽しみたい」と思わせる仕掛けが必要であろう。また、山梨の物産を販売する機能についても弱く検討が必要である。

●**駅東側**については舞鶴城があるが、現在は観光客へのアピールポイントが不明確であり、また生活者にとっても城内の回遊性が悪いため生活者スポットとしても利用されていない。また舞鶴城と駅の間には事実上のデッドスペースもあり、その有効利用も課題と言える。

●**駅西側**については、駐車場が散在しており、中にはデッドスペースも多く、エリアとしてどのような機能を果たすかが不明確である。

●**ファンシーロード及び紅梅地区**周辺の機能は、基本的に生活者の購買・居住エリアであるが、現在進行中の紅梅地区の開発計画をいかに甲府エリア全体の開発計画と連動させ、購買エリア・居住エリアとしての価値を高めていくかが更なる課題である。

以上、個別に問題点を列挙した。問題点ではないが追加要素として県民会館、税務署、県立図書館等の移転などにより新たにスペースが発生するため、そのスペースの有効利用も大きな機会である。いずれにせよ、ランドデザインを元に各エリアが果たすべき機能を明確にし、その機能に基づいた区画整理や開発計画を立て、実現していくことが必要である。

別図 2 現状の問題点の整理 (①エリアの機能)

エリアの機能とは:当該エリアにおいて、人の流れを創る(誘引・滞留)ための役割・目的のこと(歴史観光、ショッピング、交通の拠点、等)

区分	北 口	南 口				
		西側	駅前正面	ファンシーロード	紅梅地区周辺	東側
観光	・主に東側に、歴史公園、甲州夢小路、よっちゃばれ広場、藤村記念館など、観光を誘引するエリアとして明確な位置づけあり	・飲食街があるが、雑然としていて観光客向けには無い	・駅前正面は山梨を感じさせるものが無い(待ちタクシーが目立つ、信玄公像に気付かない) ・山交百貨店、駅ビル以外に観光土産が買える場所がほとんど無いため、買えるものも限られる	・観光客向けとすると、アピールする商品が不明確である	・紅梅地区等に行くと「何が買えるのか」「何が楽しめるのか」が、伝わっていない	・舞鶴城の認知度が低く、観光客に対し、何をアピールするのが不明確 ・高架下周辺にデッドスペースあり
生活	・西側は官公庁関連集積エリア、北側は図書館等の生活サポートエリア、と明確な位置づけあり	・駅から5分以内の好立地であるが、大半が駐車場で、デッドスペースも散見 ・自動車、自転車共に駅への通過スポットとなっているが、明確な位置づけは無い			生活者の居住・買物のエリアとして位置づけが明確化されつつある	

別図 2 現状の問題点の整理 (②動線)

動線とは:人の流れのことであり、動線を整備するということは、人の流れをつくるインフラを整備すること(道路、駐車場、停留所等)

区分			北口	南口			南北
				西側	正面～ファンシーロード～紅梅地区	東側	
観光	自動車	マイカー	・北口エリアは基本的に駐車場が少ない ・駅前に駐車場はあるが短時間用	・ダイタ等の大型駐車場が点在 総じて、駐車場が点在しており、駅前駐車場は広くないため探すのに一苦労	・エ克蘭駐車場のみ	・山交百貨店前駐車場	・西側は高架でスムーズ ・東側は踏み切りで渋滞しがち
		観光バス				・舞鶴城の南側有(ガラ空きだが)	
		周遊バス(観光地、エリア内)	・ロータリー整備済み ・レトボンルート無し	・レトボンルート無し	・レトボン回遊有るが、乗り場がわかりにくく、ルートも限られている ・待機タクシー台数が多いため無駄なデッドスペース	・レトボンルート無し	
		タクシー	・タクシーレーン整備済み	—		—	
	歩道	徒歩	・ペDESTリアンデッキ整備済み	—	・メイン動線であるファンシーロードには行きにくい	・舞鶴城への誘導なし ・歩道橋等があり、人に優しくない道路	・東側は、歩道が無く危険を感じる
生活	自動車	マイカー	・北口エリアは基本的に駐車場が少ない	・総じて、駐車場が点在しているが、不足しているわけではない ・朝、夕方は、岡島近辺は混雑			・西側は高架でスムーズ ・東側は踏み切りで渋滞しがち
		路線バス	・ロータリー整備済み	—	・特に問題なし	—	
	歩道	自転車・徒歩	・駐輪場整備済み ・ペDESTリアンデッキ整備済み	・大量の放置自転車 ・駐車場、駐輪場から駅への歩行者動線が曖昧	・大量の放置自転車 ・ロータリー迂回が必要	(生活者として行くスポットが無い)	・東側は、歩道が無く危険を感じる

別図 2 現状の問題点の整理 (③景観)

区分	北口	南口			紅梅地区周辺
		西側	正面	東側	
観光	・放置自転車等も無く、基本的に整備されている ・東側は、歴史エリア、西側は官公庁と、エリアの位置づけに則した景観が整備されるものと期待(開発中)	・放置自転車等が多く景観を損ねている	・放置自転車等が多く景観を損ねている ・山梨の玄関口であるが、自然や歴史といった山梨らしさを感じない	・駅から舞鶴城が見えない ・歴史を感じさせる景観はほとんど無い	・一部雑然とした通り有
		・エリア毎の役割が不明確であるため、その役割に基づく景観整備はなされていない ・街全体としての統一的なコンセプトも感じない			

2. 動線について

動線とは、「人やモノ（自動車等）の流れ」であるが、街づくりにおいては、大きく「自動車動線」と「歩行者動線」の2つに分けることができるため、それぞれについて論じていきたい。

①自動車動線について

まず観光客が自動車により甲府に来る場合を考える。手段としては大きく観光バスかマイカーであろう。下記に問題点を挙げる。

- マイカーについては、駐車場が点在し、案内・誘導も不十分であるため、わかりにくく探すのに苦労する
- 大型の観光バスを甲府の中心に停める大型駐車場が無い場合、そもそも観光バスで来ることができない

特に重要なのは、観光バス用の大型駐車場が無いことである。交流人口を増やすためには、外国人観光客（特に中国人）を甲府に呼び込まなくてはならないことはすでに述べたが、実際彼らは富士山までは観光で来ているのだ。富士山が世界遺産になれば、さらに大勢の外国人観光客が訪れるであろう。しかし現状では甲府までは来てもらえない。その根底の原因の一つは、甲府の中心に観光バスが乗り入れる駐車場が無いからであろう。もちろん駐車場だけで観光客が来るわけではないが、最低限の駐車インフラが無いと、旅行代理店や観光客の検討の土台にもあがらない。この大型観光バス用の駐車場を甲府の中心に整備することは、重要かつ急務であると考え。

次に、甲府に来て頂いた後に、街中の回遊や近隣スポットへの出発という動線を考える。メインの手段は、バスとタクシーであろう。街中の回遊については、レトボンが運行中であるが、現在のルートは駅前と紅梅地区・岡島周辺を行き来するものである。

現在開発中の北口エリアとの連携を含め、甲府駅南北エリアを広く俯瞰した上で、買い物、観光等を目的とした最適なルートを再検討する必要がある。さらにレトボン乗り場も通常のバス乗り場と別な場所にあり、わかりにくいことも問題として挙げておく。またタクシーの問題については「3.景観について」で述べることにする。

②歩行者動線について

歩行者動線については、北口はペDESTリアンデッキの構築等により整備済みと考える。問題は南口エリアであるが、問題と思われる点を下記に挙げる。

- 南口に降りたときに、正面に見えるのは待機タクシーとバスロータリーで、歩行者は迂回しなければファンシーロードに抜けることができないなど、総じて駅前自動車優先で歩行者には優しくない動線になっている。
- 駅から東側については、舞鶴城に行く動線が整備されていない。具体的には、誘導も無いし、道も狭く、歩道橋を上がらなければいけない。これでは観光客を誘導するには非常に不親切である。
- 駅から南のファンシーロードを経由し紅梅地区周辺に行く動線については、紅梅地区の開発により歩行者動線はそれなりに確立しつつある。しかしあくまで線としての動線であり、エリア全体の面としての動線にはなっていない。
- 南北の動線については、東側の踏み切り道路に問題がある。歩道が無く歩行者は危険を感じながら踏み切りを渡らなければならない。

以上を総合すると、まず起点である駅前南口を歩行者にとって歩きやすくした上で、駅前南北エリア全体を俯瞰し、エリア全体を面として活かすためのあるべき動線を検討し、それに合わせた動線インフラを整備すべきであろう。

3. 景観について

北口エリアについては、駐輪場、ロータリー等が整備され、基本的な景観は整備済みであり、表面化している問題点は見当たらない。特に東側は、歴史エリアというコンセプトに基づいた統一的な景観が整備されつつあると期待される。

南口エリアについては、一言で言うとコンセプト不在である。実際に南口を降りたときに、山梨を感じるものが無く、信玄公も見えず、見えるのは待機タクシーとバスロータリー、少し歩くと放置自転車が目に付くという状態であり、「観光立県山梨」の玄関口を感じさせるものは何も無い。まず甲府の街全体のコンセプトを検討し、何らかのコンセプトに基づいた街全体として統一性のある景観をつくりあげることが必要であろう。

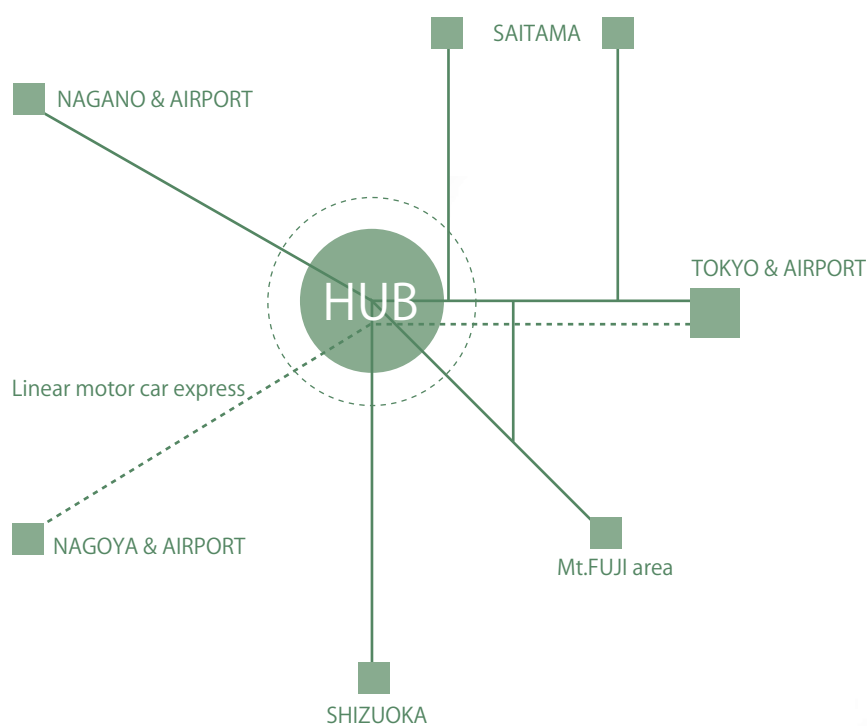


5. 甲府グランドデザインのコンセプト

本章より、甲府グランドデザインについて論じていきたい。
甲府グランドデザインを考えるうえで、大事なことはコンセプトである。
街づくりの各論（具体的提言）に入る前に全体のコンセプトを明確にしておく。

1. 山梨全体の玄関口

まず街づくりの最もベースとなるのは「山梨全体の玄関口」というコンセプトである。「2章 山梨県・甲府の目指すべき方向性」で述べたことだが、山梨には素晴らしい魅力が数多くあるが、それらを結び全体としての魅力につなげていくためには、ハブとなる拠点が必要であり、それこそ甲府が担う役割であるからである。例えば、他県からの観光客は甲府を玄関口と考え、甲府に行けば山梨全体の情報が入りモノが買えることを期待しているが、現在この機能は果たされているとはいえない。この「山梨全体の玄関口」というコンセプトを甲府グランドデザインのベースに据えるべきである。



2. 観光客と生活者の共存

次に大切なことは、「生活者」という目線を、ベースとなるコンセプトにきちんと埋め込むことである。「観光客」はインパクトは大きいですが、移り気で繁閑差が大きく一過性の側面が強い。反して「生活者」は、日常生活に密着していて継続性がある。そもそも「生活者」の視点がないとスポット的な魅力は出せても街の継続的・本質的な魅力は生み出せない。つまり「生活者」にとって魅力の無い地域は、観光客にとっても魅力がないのである。しかし、観光客と生活者は、目的も行動も異なるため、それぞれがきちんと共存できるようなエリア毎の機能の明確化や動線の棲み分けを整理する必要がある。



3. 市民が誇りに思える街

最後に、「市民が誇りに思える街」ということをコンセプトとして掲げておきたい。街の真の魅力はそこに生活している市民が生み出すものであるが、その根底は、いかに自分の街を誇りに思っているかではないだろうか。もしそうならば、甲府の街の誇りの源泉は何であろうか。大胆に一つあげるならば、「歴史」とであると考え。甲府は、開府以来500年のつながりのある歴史を持つ都市である。しかしながら歴史というと武田時代がフォーカスされ、それ以外の時代の認知度は、残念ながら甲府市民であつても極めて低いのが実情である。

ここで甲府の「街」の歴史を簡単に紐解いてみる。まず武田時代には主に北口を中心に街づくりが整備されたが、その後徳川家の天領として、特に柳沢吉保の時代に舞鶴城や駅の南側が整備された。また幕末には、官軍板垣退助が甲府城を制圧し、支配者が変わることによって明治の新たな街づくりが始まった。そして太平洋戦争の大空襲により一面焼け野原となった後、今の甲府の街の原型がつくられたのである。以上のように支配者と街づくりが時代毎に塗り重ねられてきた、つながりのある歴史を持つ街であることが、甲府ならではの特徴の一つである。

甲府市民が自らの街の誇りを再認識するために、この街の歴史をわかりやすい言葉で若い世代を中心に教育していくことも重要であると考え。このコンセプトについては、次章の甲府グランドデザインにすぐに具体的に反映されるものではないが、考えとして重要であるため、コンセプトの1つとすることとした。

以上を踏まえて、甲府グランドデザインを具体的に提言していきたい。



6. 甲府グランドデザイン

前章での街づくりのコンセプトに基づき、「観光」「生活」の二つの観点からエリア毎に機能を明確化し、その機能に基づく具体的な提言を行なっていく。

(甲府グランドデザイン全体像(イラスト)は別図3、エリア機能・動線の地図プロットは別図4、グランドデザイン要旨については別図5参照)

また具体的な提言をするにあたっては地権等の制約条件は考慮せず、あるべき姿を大胆にフリーハンドで描いていることを再度付け加えておく。



1.観光エリアにおける提言

①山梨の玄関口と観光起点

<駅前南口正面～東側>

「観光」の観点から街づくりを設計するにあたり、最も重要なことは観光動線の起点を明確にすることである。起点が明確化されれば、各観光エリアまでの動線が確立し、全体像が設計可能となる。

では観光起点の具体的立地についてであるが、結論から言うと、南口駅前正面から東側（舞鶴城の西北）の区間に設置することを提言したい。この立地は、北口東側の観光エリアにも、舞鶴城にも、JR駅にも近く、更に南口の西側にも南側にも抜けることも短時間で可能であり、まさに甲府観光エリアのハブとして理想な立地と考える。

しかし現時点では、JR駅からこの場所への来訪には問題ないが、大型バスやマイカーを使って甲府に来訪する観光客には、この場所に大きな駐車スペースが無い、という問題がある。これについては、舞鶴城西北の事実上のデッドスペースの活用や区画整理の実施によりスペースを捻出し、駐車場や乗降車場及び道路拡張等の整備を行なうことを提言する。なお以下ではこの区画のことを「観光起点」と呼ぶこととする。

また、この観光起点となる場所（特に駅正面）には、わかりやすい観光案内・回遊案内の設置や観光案内所の更なる充実、及び甲府エリア全体における駐車場空き情報表示の見直しといったことも合わせて提言する。まず、甲府に来て頂いた方に山梨の観光の玄関口として不便な思いを感じさせないことが大原則である。なお観光客の中には登山客も多い。駅周辺に、登山客用の荷物預かり、軽食、温泉など、専用の施設を設けることも提言として加えておく。

この「観光起点」を前提として、エリア毎の具体的提言を行なっていく。なお北口エリアについては、すでに機能が明確化され、具体的な開発計画が進行中であることから、具体的な提言をする必要はないと判断し、以下では特に論じない。

2010 YAMANASHI Dreams come true project



1.観光エリアにおける提言

①山梨の玄関口と観光起点

<駅前南口正面ロータリー>

駅前正面については、現在タクシー乗り場とバスロータリーになっている区画の、大きく東側を観光区画、西側を生活者区画と整理する。東側を観光区画とするのは、北口・南口ともに観光エリアが東側にあるからであり、逆に西側を生活者とするのは、元々西側には駐車場や駐輪場が多く、実態として生活者利用の色合いが強いためである。現在の駅前正面を「観光」「生活」の2つの機能から明確に分け、観光客にとっても生活者にとっても利便性の高い整備を行なっていくことが重要と考える。

では具体的にどのような整備をすべきかであるが、まずは大雑把なスペースの整理からである。まず西側の待機タクシーを減らしてスペースを捻出し、現在のバスロータリーで定期路線バス等の生活者利用のものは基本的にその西側スペースに集約する。これにより西側は定期路線バス等となり、生活者が利用する区画として明確になる。(数台のタクシースペースは残置。タクシーは生活者も観光客も双方が利用するため)。

空いた東側は、山梨の玄関口として観光客が「山梨の顔」を感じることできる広場等にすることを提言する。例えば、信玄公像もこの区画に移設すればよいだろう。また広場の整備はファンシーロードへの歩行者動線の整備も兼ねているため、その動線整備も自動的に実現されることになる。

なお駅前南口正面ロータリーの開発については、上記提言と概ね同様な計画が推進中であるため、その開発計画を支援していくこととしたい。

<駅前南口東側（舞鶴城西北）>

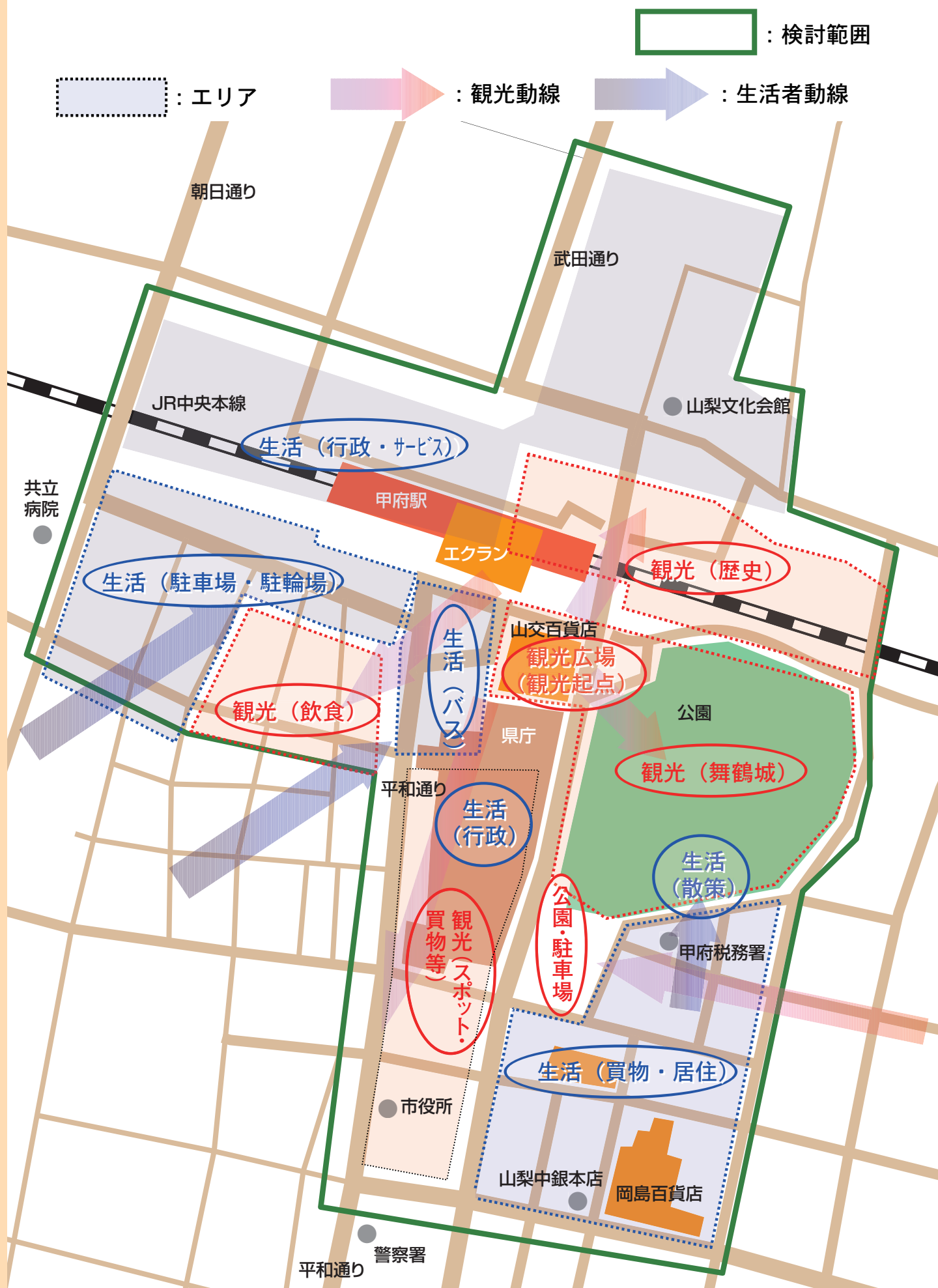
駅前正面の観光広場が山梨の顔の役割を果たすならば、このエリアが自動車（観光バス、マイカー）を受け入れるための玄関口の実際の機能を果たす。そのためには、バスの乗降車場・駐車場及び周辺道路等を整備する必要がある。

また、ここが観光の起点となるため、甲府エリアを回遊するレトボンや南口から山梨の観光スポットへ向うバスなどを集約し、観光向けバス乗り場を集約することも提言する。つまり観光における自動車交通の発着機能を一元的に集約してしまうのである。これにより、観光客にとっては移動ロス無くあらゆる場所に出発可能となる。

そしてレトボンルートについては、現在は駅南口から紅梅地区・岡島周辺へのルートであることは述べたが、エリア全体を回遊するようなルート変更を提言したい。具体的には、北口エリア、後述する舞鶴城エリア、南口西側飲食エリアなど観光機能を持たせるエリアをくまなく回遊するようなルートにして、どの観光エリアにいても、最後はレトボンで帰ってこれるとの安心感を持たせ、エリア全体の回遊性を高めることが重要であると考えます。

また駅前正面と東側（舞鶴城西北）を結ぶ道路についても、歩行者インフラをきちんと整備することも必要である。(例えば、道路拡張等のインフラ整備、動く歩道の設置、アーケード設置など)

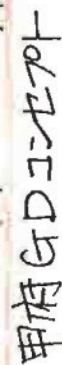
別図4 エリア機能・動線の地図プロット



山梨経済同友会

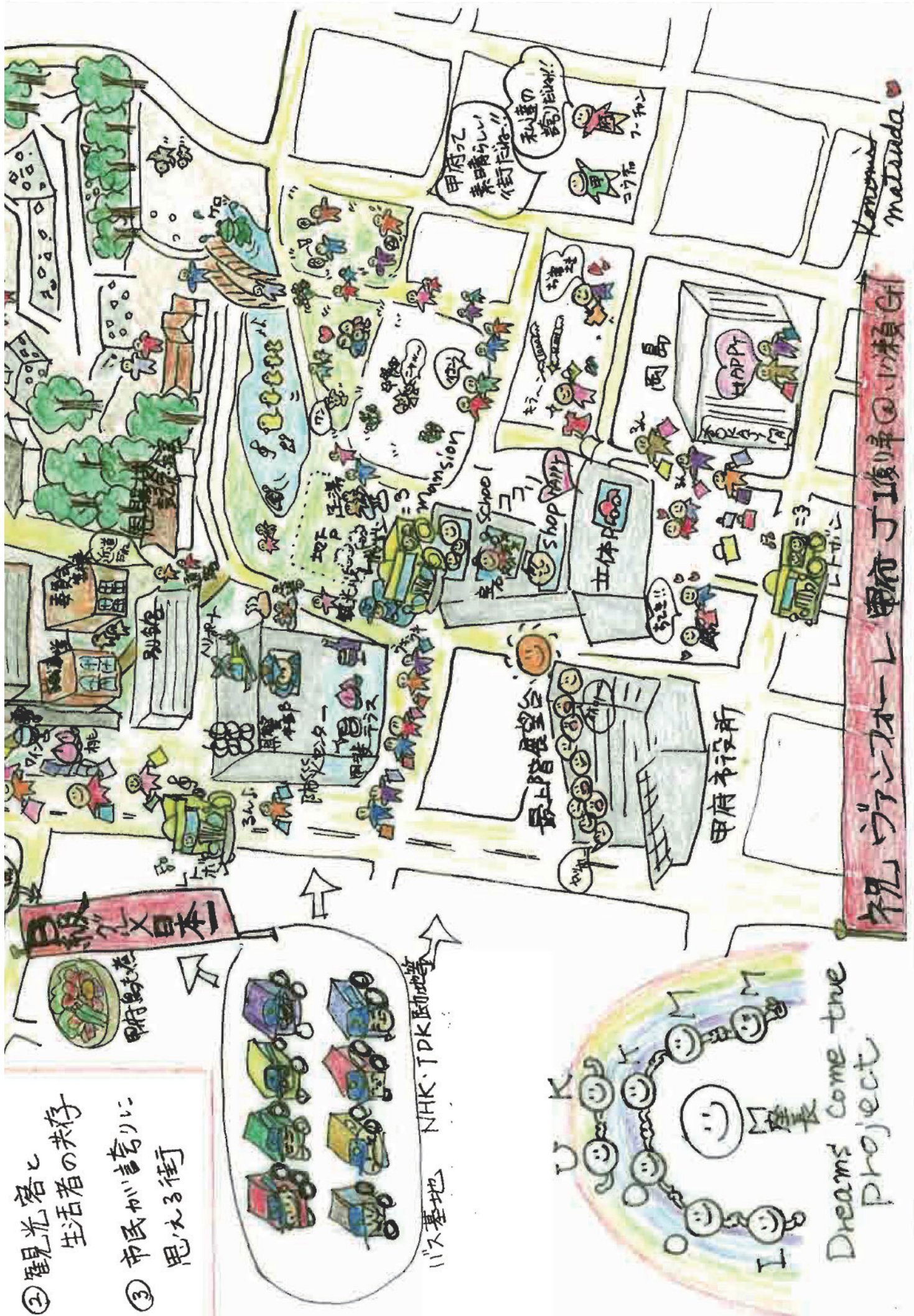
D.C.T.P.

Dreams Come True Project



①山梨金体口

- ② 観光客と生活者の共存
- ③ 市民が「言」に思える街



1.観光エリアにおける提言

②舞鶴城エリア

舞鶴城については、「観光」「生活」の双方が共存するエリアとして位置づけることを提言したい。具体的には、最低限城内を安全かつ快適に回遊するための歩道ルート整備（バリアフリー等）や植樹・お花畑の設置、及び恩賜林会館を甲府の多様な歴史を伝える施設として再整備することを提言したい

③県民会館跡地

県民会館跡地については、かなりのスペースが確保できるため、ここを先ほど述べた「観光起点（舞鶴城西北）」の補助的な駐車場・乗降車場として整備する。さらに「観光」のみならず「生活者」の観点から、駐車場等は地下に設置し、地上は「芝生公園」や「庭園」等の緑溢れるスペースにするなど「生活者・観光客」が上手く共存するエリアとしたい。

④県庁・市役所

このエリアは、県民会館跡地に近いこともあり、観光客が買い物やちょっとした空き時間を過ごすためのスポットとして位置づける。すでに県庁に「足湯」、市役所に「展望台」が設置されることは周知だが、さらに防災センター 1Fのスペースに「かいてらす」を移設するなど、観光客が山梨の特産物を購入できる施設を整備することを提言したい。

また、観光客の利便性向上を目指し、県庁の中庭緑化し県民会館跡地からファンシーロードへ抜ける新たな歩行者動線の整備や市役所駐車場の一般開放も合わせて提言する。

⑤駅前南口西側（飲食街）

元々飲食街であるこのエリアを観光エリアとして新たに位置づけることを提言する。具体的には、観光客が山梨各地の地元の食材を使った伝統料理（ほうとう、鳥もつ）、ご当地グルメ、お酒（ワイン・地酒等）が味わえるグルメスポットにすることを提言する。これにより、単に各地のものを買うだけではなく味わえることにより、甲府の山梨の玄関口としての機能がより充実することとなる。なお、このエリアの区画整理や店舗誘致には相応の時間を要するため、駅周辺ビル内外の空きスペースを利用して当面のグルメスポットを整備することも検討していきたい。

⑥その他（ホスピタリティ）

観光における山梨全体の玄関口として重要な要素としては、街全体のホスピタリティである。リピート率を高めるために最も大事なことは人の心、おもてなしの心である。山梨県人は自らが意識していなくても、観光客からは無愛想と受け取られるケースが少なくない。街全体のホスピタリティ向上に向けて、市民自らが話し合い改善していくことが重要である。

なお現時点のホスピタリティ向上の動きとしては、「おもてなし県民運動」が提言され、県が条例化を検討している状況であるが、本プロジェクトとしても主旨に同感であるため、協力・支援していきたいと考えている。

the tourist industry

2.生活エリアにおける提言

先に「観光エリア」について述べてきたが、次は「生活エリア」について論じていく。「観光」と「生活」は地理的に厳密に完全に分離できるわけではないが、少なくともグランドデザインとしては、エリア毎に「観光」か「生活」か、それとも「双方」なのかは明確にした上で、開発・整備を行なっていくことが大切であると考える。

①駅前正面ロータリー（西側）

「観光」のところで概ね述べたが、駅前南口正面ロータリーを「生活者エリア」として位置づけ、生活者が使う定期バス（停）を西側に移設する。

②駅前南口西側

南口西側は、駐車場が点在しているエリアであるが、機能が不明確であることや放置自転車が多いことは問題点として既に述べた。このエリアを、駅前正面ロータリー（西側）を生活者エリアと定義したと連動し、同じく生活者エリアとして位置づけることを提言したい。具体的には、デッドスペース等を利活用した区画整備を行い、駅までの生活者用の駐車場・駐輪場を整備するとともに、そこから駅までの歩行者動線の整備、例えば西側に通勤用の無人改札口を設置するなど、生活者の駅利用の利便性を高めていくことが必要であろう。

③舞鶴城南～紅梅地区

舞鶴城南から紅梅地区までのエリア一体を、「生活者エリア」として位置づけることを提言する。ここは従来生活者の購買エリアであったが、新たに開発された「ココリ」が居住地としての側面を含めて開発されたことに象徴されるように、今後は居住エリアとしての位置づけを強め、「総合生活エリア」として開発していくことが良いと思われる。

その場合、舞鶴城の南側にある税務署のスペース等は、新たに生活スペースとして居住地や生活者空間として更に活性化するような公園やファッション等の商業店舗の誘致など、更なる有効活用が望まれる。

④舞鶴城

舞鶴城を「観光」「生活」の共存エリアとして位置づけることは前述したが、その理由は紅梅地区が「総合生活エリア」として定義されたからである。つまり県民会館跡地の公園や舞鶴城は新たに「生活者の憩いの場」という意味合いを持つことになる。その意味でも、舞鶴城内を安全かつ快適に散策できるような歩道整備や植樹・お花畑の設置などが必要であろう。

また恩賜林会館を街の歴史を伝える施設として再整備することも述べたが、それは観光客向けだけではなく、コンセプトで述べたように甲府市民が自らの街の誇りを再認識するために若い世代教育するための施設として活用していきたい。

2010 YAMANASHI Dreams come true project



the living area

3.甲府統一ブランド化を目指して

最後に、甲府という街のブランド化についてである。ブランド化の必要性については過去に多々論じられているため割愛するが、ここでは甲府グランドデザインのコンセプトに則り、観光客・生活者の双方が甲府の街に親しみと未来を感じてもらふ象徴としてのネーミングを提言したい。

そのネーミングは、30年近く前、甲府青年会議所が甲府のイメージを公募して命名した「山の都」と、甲府商工会議所が描いた甲府のグランドデザイン「つなぐ街甲府」を後押しする意味を込めて「山の都・つなぐ街 甲府」である。このネーミングを合言葉に、甲府の街が、山梨各地の素晴らしい自然をつなぎ、自然と都市が調和した新しい街づくりを行なっていくことで、山梨全体が発展することを強く願うものである。

2010 YAMANASHI Dreams come true project



別図5 グランドデザイン要旨①

エリア区分	エリア機能	具体的提言	備考
観光エリア	①駅前南口 正面～東側	＜観光広場（正面）＞ ・観光案内／回遊案内図の整備、観光案内所の充実、駐車場空き情報表示の見直し ・山梨の感じさせる観光広場の整備 ・信玄公像の観光広場への移設 ・駅周辺に登山客用の荷物預かり、温泉、軽食等 ＜観光起点（正面～東側）＞ ・観光の起点として乗降車場、周辺道路等の整備 ・レトボン、観光地へのバス等の各地誘導機能の一元化 ・レトボンルートのエリア全体カバー	・甲府駅を降りた方に不便・不愉快を感じさせないことが基本 ・駅前南口開発については現在進行中の計画を支援
	②舞鶴城	・観光スポット、生活散策の両面から位置づけ ・舞鶴城までの歩行者導線の整備 ・舞鶴城内を安全かつ快適に回遊、散策するための歩道ルートや植樹・お花畑等の設置 ・恩賜林会館を街の歴史を伝える施設としての再整備	
	③県民会館跡等	・観光バス、長距離バス及び一般車の交通拠点として位置づけ ・地上は芝生公園・庭園など緑溢れるスペース ・地下は観光バス等の駐車場、乗降車場の整備 ・屋根つきで雨に濡れず、ちょっとした買物ができる施設の開発	・大型バスの郊外駐車場としては、NHK跡地（飯田）、TDK跡地（東光寺町）等を想定
	④県庁／市役所	・生活（行政サービス）に加え、観光客を楽しませるスポットとしても位置づけ ・県庁中庭を緑化し、歩行者通路を設置 ・防災センタ1Fに「かいてらす」移設等、観光客向けに山梨の特産が買える場所を提供 ・市役所駐車場は一般開放	・県庁に足湯 ・市役所に展望台
	⑤駅前南口西側（飲食街）	・飲食街は、観光向けに位置づけ明確化 ・「ほうとう」「鳥もつ」「フルーツ」「ワイン・日本酒」などで当地グルメが味わえるグルメスポットを設置	
	⑥その他	・街全体のホスピタリティ向上⇒おもてなし県民運動を支援	

別図5 グランドデザイン要旨②

エリア区分	エリア機能	具体的提言	備考
生活エリア	①駅前南口 正面	・バスロータリーの西半分を生活者（定期路線）バス乗り場として移設	
	②駅前南口 西側	・放置自転車0化に向けた駐輪場の整備 ・生活者のための駐車場の整備 ・JR西側改札口を設置し、生活者の利便性を向上	・駐輪場整備を前提に条例化も検討
	③舞鶴城南～ 紅梅地区	・居住、購買を含めた「総合生活エリア」として位置づけ ・舞鶴城南側は生活者の憩い＆癒しの空間として芝生公園・庭園等を設置 ・さらに生活者動線が活性化するようなファッション等の商業店舗の誘致	
	④舞鶴城	・観光スポットのみならず、生活散策の観点からも位置づけ ・舞鶴城内を安全かつ快適に回遊、散策するための歩道ルートや植樹・お花畑等の整備	
	⑤その他	・甲府の街を生活者が誇りに思うための歴史教育 ・恩賜林会館を街の歴史を伝える施設としての再整備（小中学生等、若い世代を重点ターゲット）	
その他（全体）	全体	・自然と都市の調和を目指した、街の象徴的なネーミングを付与 ・「山の都・つなぐ街 甲府」	

7. おわりに

D.C.T.P. のメンバーが議論を始めてから早くも8ヶ月が経過した。実現可能な夢を語り合いながら楽しい時間が過ごせたことを仲間の皆様に感謝したい。その間、地元では他の仲間が夢を実現させ快挙を成し遂げた。

「皆さまの縁をとりもつ隊」のB-1グランプリの優勝

「ヴァンフォーレ甲府」のJ-1昇格

「歴史ウォーク」の大成功

何億円の広告代を支払うよりも即効的に甲府の知名度を上げることが出来た。

ここに到るまでの関係者の皆様の知恵と努力に対して心より敬意を表したい。また平成25年山梨県で開催される「国民文化祭」の資料も配布され始めた。県外から多くの人たちが山梨を訪れるだろう。この効果を持続的に地域の活性化に結びつけるためには県民全員で大切に育てていかなければならないと思う。

一方、定住人口確保には大いに貢献するマンション建築ラッシュも一段落した後、最近に無く官主導の建物や施設の建設が続いている。官主導の建物は今までは、ややもすれば中身のない「箱物」と呼ばれ卑下されてきた。行政に携わる人々も職場を離れると一県民である。一県民の立場として我々県民の血税をつぎ込む事業であるからには過去の不評を払拭し、地域の活性化に繋がっていく中味のある事業とするべきである。最近、官民協同事業の成功例があちこちで聞かれる。色々の変化や動きを千載一遇のチャンスとして捉え、我々県民の各種提言を取り入れて子孫に誇れる事業完成を願って止まない。

D.C.T.P. を発足させる時、メンバーには敢えてよそ者（失礼!）の人たちに就任していただいた。既成概念があると否定が先行して議論が前に進まないからである。全国で色々な経験をされてきた支店長族の皆様の屈託の無い意義ある発言に座長の私はしばしばたじろぐ場面があった。そんな中で、議事録作成、資料作成等、有能で優秀な小林、内野両氏の事務局に大いに助けられたことに感謝したい。

最後に、一言

提言作成の過程で我々の周りにも同じ熱き想いを持っているグループが大勢いることが判った。官も民も各々のエネルギーを分散することなく地域の活性化という目標に対してベクトルを合わせて「山の都・つなぐ街 甲府」を実現させようではないか!!

2011年1月

D.C.T.P. 座長 望月 操三



山梨経済同友会

●D.C.T.P.メンバー

<座長>

望月 操三

<メンバー（五十音順）>

入倉 要（株式会社イリックス 代表取締役）

大村 俊介（岡島百貨店株式会社 代表取締役）

小野 勝（東京電力株式会社 山梨支店長）

小林 幸典（リコージャパン株式会社 山梨支社長）

松田 淳（東日本電信電話株式会社 山梨支店長）

松本 順丈（日本銀行 甲府支店長）

<事務局（五十音順）>

内野 晋吾（東日本電信電話株式会社 山梨支店）

小林 弘高（東日本電信電話株式会社 山梨支店）

<イラスト>

松田 好

第2版 2月発行

出展・参考文献等

- ・チャレンジ山梨行動計画（山梨県）
 - ・第5次甲府市総合計画（甲府市）
 - ・甲府市観光振興基本計画（甲府市）
 - ・甲府グランドデザイン（商工会議所）
-



甲府グランドデザイン2010
提言書



2011年1月

山梨経済同友会

D.C.T.P.